

18/7/13 石垣部会(名古屋市民オンブズマン作成メモ)

傍聴者 14 人

10 : 00

岩本室長 : 司会

河村市長 : 市民の思いを伝えるのが仕事

冒頭 きとるシャツ 有松鳴海絞り 天下普請

大分絞り職人 税金をかけずに

東海道でナンバーワンの土産

城の方 議論して

400 年ほど住んでいる 戦争で完全に破壊された

道路ばっか作っていた 青年都市なのか? わからない

歴史のある本物は熱田神宮 草薙剣防空壕に移した次の日に本殿空襲

小さいとき絵をかきに名古屋城に行った

館ひろしアンバサダー 小さいときに名古屋城

コンクリートは大嫌い 言っていた

市長やらさせて頂いた 60 年大変ベリーマッチ 心理がある

かつての日本の誇り 燃えた 本物ではなくなった 悲しみ

天守 千田、麓 法隆寺から続く木造建築の到達点

石垣 千田

どうも石垣、天守ともに名古屋のまちづくり もっと大事にすべきではないか

約束をしたい 市長をさせて頂いている

石垣 天守の石垣だけでなく、正門すぐのくぼんだ石垣

馬車がとおれんから埋めちゃった 復元したい

人員と予算を付けてやりたい

国宝 1 号名古屋城に誇りを取り戻す

一応市長をやらさせて頂いている 約束したい

経済水道委員会 2022 年工期、505 億円 なんとやっているのか

僕のコメント 常日頃から市民との約束 全力を尽くしたい

大変重要なミッション 頭に置いて頂きたい

話が出てきた 地震の話 耐震の話

石垣耐震診断 ないよう 天守はある I S 値 倒壊のおそれ

5 大都市の中で耐震性能が一番低い

下で工事 危ないのでは?

大阪 6弱 6強では危ない

危険な行為をさせてはいけない 非常に心配している

石垣を丁寧になると、加藤清正刻印 自分の名前を書くのではなく部下の名前を刻んだ
地下からも出てきた

戦争の痕跡も残っている 歴史の重要な証人

お宝が出てくるのではないか

公務がある、河村がいるとうるさいで

広沢副市長がいる

文化庁「石垣部会ときちんと議論して」言われた

市民に成り代わる人間ではないが、その立場がある

くれぐれもよろしく

岩本室長：他の公務があるのでここで失礼する

参加者 北垣、赤羽、千田、洲寄

写真・ビデオはこれまで

資料確認 会議次第、出席者名簿、座席表 資料 1 2 3

座長に交代

北垣：搦手馬出し石垣説明

学芸員：残り 2 段 平成 14 年度から

石の取り外しは今年度で終わり

10 : 28

北垣：意見は

赤羽：1 ページ 1.2

大型土嚢の中身 土の質は？

学芸員：現場で発生した土またはぐりいしを入れる

赤羽：図の 3 積み上げる断面図 赤い線 検討中

まだ決定された線ではないのか？ 64 度など細かい数字が出ている

どういう根拠か

学芸員：厳密な検討結果ではない

石垣 江戸時代の文献で勾配推定

天和のもの 若干従来検討勾配より違う数字も見られる

復元勾配 図上勾配を単純に当てはめられるかは別

その点はまだ不十分

数字はこれでやるわけではない。

赤い線の数字は参考

千田：図の3 シートによる養生 いったん解体したときのものか？

学芸員：それで結構 砂質が強い

来年度正式な工事で

千田：それがよい 地山に水がたまる

北垣：たびたび言ってきたが、結局 10 年以上たっている

全国でもない 時間かかりすぎ

誰が責任ではなく、非常に石垣部会としては石垣評価 本質的価値

名古屋城の本質的価値という位置づけで調査をやり、地盤の安定性

地盤工学の専門家を受け止めて

状況が重なって遅れに遅れている

しっかりした仕事を継続しながら日本でさすがやなというように仕上げたい

部会先生と話をしている

でた図面 今回メンバー 一新された

いいことだが、今までやってきた伝統技術は継続性を重視する

現場でいろいろやってきたことを再吟味しながら本格的に積み直しの作業に

入っていく

今日の資料 いよいよ来年度から積み直し作業が始まる

もっとわかりやすい縦横断図 以前いただいた図

石垣が 10 年の前に取り外そうとなったかがわかる

図 3 縦断図 克明にやっていくと石垣の危ない状況が全部わかる

あらためてやろうとしている

関係者全員が確認し合う

現場の頭領と文化財担当者、元請け そういうような関係者一同が

とにかく最初の段階で確認する必要がある

まず今はもう一度再確認を

図の3ではなく以前の図を
勾配の問題 現在はどういうような勾配 これをはじめて 基準となる
櫓台 天和の積み直しではないか
いったい名古屋城の天守台 市長さん話していたが、
清正の勾配と、天和の勾配がどこがどう違って、どう復元すべきか
「まだできていない」 えらいこと
再認識されてしっかりと取り組みをしていくべき
これ以上話をしては混乱する
頭領が一番しっかりわかっている 文化財担当者と討論しないとイケない
あらためて確認して欲しい

10 : 41

北垣：次の話題 小天守周り

名古屋城：昨年度天守台周り調査

小天守周り 本丸御殿素屋根があったため調査できなかった
本年度 現状変更許可申請をした
西側、東側 1カ所 地図
資料2 1ページ 調査場所

10 : 43

北垣：ご意見は

千田：小天守西側〇

独立した枡形 本丸御殿北、階段が当初図
石垣のことをどうなっているか
どれだけ残っているか
当初の名古屋城 小天守周り 痕跡は？考古学的にできるか

北垣：千田先生と同じ

小天守台 本質的価値 当初の石垣が残っている可能性あり
関わった技能者 頭領 当時の方 安濃とっている
全国直接関わっている 安濃すうが 現場で出てくるのはここだけ
他は伝承
資料編 ちらちら見せて頂いている
大天守、小天守 縦横断図

どうして私たちがこれまで見れなかったのか 残念
例えば勾配 熊本城に残っている技術書
名古屋城の古い段階は同じではないか
同じかどうかは名古屋市側によって確認してもらいたい
私の方 検討調査 こうであろう
確認するのは名古屋市しかない
ぜひそういう作業をしてほしい
簡単な問題ではない 継続的にしてほしい
この資料集はすごい
小天守台 いっしょにやらないといけない 別ではない
こんだけ立派なもの わからなかった 堂々とやれる
調査を加速して欲しい

千田：O, P 現行小天守

当初設計 枡形があった 高い地面があった
時計回りで西側から入る計画
加藤清正 本丸地面からの石垣で、それを埋めて西・南作るのか
枡形が来るから高いレベルから作り直したのか
設計段階と実際の工事と違うのか
まだわからない
西側 幻の小天守 開口部が残っている
「清正が作った」といいきっていいか
石垣の側がどうなっているか
周りの調査区 どういう土層になっているか
非常に重要な場所
必要最小限の調査 どういう調査すべきか
「石垣だけ注目して、周り気がつかなかった」はもったいない

北垣：大変重要な指摘

我々は残っている石垣、勾配を見ている
千田先生 縄張りの構成がどういう変遷を遂げたのか
さらに表面だけでなく深い
難しいが、視点を置いておいて欲しい
将来、名古屋市の学術調査が本格化していくと、課題になる
可及的速やかに進めて欲しい

10 : 53

北垣 : 2 つめは終わり

膨大な資料 計画書

事務局より説明を

名古屋城 : 1 冊 性格の異なる 2 つ

昨年度より天守台石垣現況調査をしてきたもののまとめ

今後天守台石垣をどう保全していくか

後半 性格が異なる 現在天守閣整備事業を計画している

保全の考え方

一度通して説明する

1 ページ G 1 資料の概要

調査の成果のまとめ 概略的に

北垣先生から話をしていただいた 資料編は参考資料 本日は配っていない

現況把握 具体的には史実・測量・現況 石垣カルテ 外部・内部・ボーリング地盤

調査

調査成果が載っている

G 2 史実調査 史資料まとめ

自ら文献調査至っていない 先行研究をまとめたのが多い

慶長、宝暦、戦時中、現天守閣築城時

G 4 青い図面 穴蔵石垣 積み替え補助金申請図面 断面図

穴蔵石垣の下にコンクリートを打った

穴蔵石垣を考える上で昭和の時代に手が入っている

G 6 資料調査図 5

戦前の写真と現在の石垣比較

戦前の石垣と現状比較 積み方比較 赤い線が入っているところで違う

現天守閣再建時 赤い線のところまで一度外されて積み直されたのではないか

各面で左側 図 4 結論を示した表 1 で示した

比較については石垣カルテで行った

測量調査 図面類は割愛した 立面、縦横断面

G 9 現況調査による石垣カルテ

状況把握していく 青い網がかかっているところ 熱を受けてもろくなっているところ

ろ

U 61 赤い部分 孕みだしている

G 9 一覧表にまとめ

比熱による劣化 石材が割れている 場所によっては間詰め石脱落認められる

G 1 2 穴蔵部分のカルテ

昭和の時代に手が加わっている

G 1 3 発掘調査の成果まとめ

根石等変状はみとめられない

追加調査の必要性 今後検討して実施したい

G 1 5 地盤調査まとめ

ボーリング調査をしたところ

G 1 6 表としてまとめた

各時代における手が入ったものを判断できた

問題点 1 赤い網 北面に孕みだし

2 天守台焼けた石 広い範囲

3 割れた石材がある、間詰め石がないところも

4 穴蔵石垣、石垣上部 昭和の時代手が加わっているところを把握した

現況を踏まえて、どのように保全をしていくか 本資料の目的

調査を踏まえて保全の方針

その前に考えること 保全のための処置 石垣の安全対策もあわせて

どこを優先するか 劣化状況+安全性

G 1 7 外部東面、穴蔵、橋台 動線 緊急的に

内堀の中 相対的に安全対策の優先度は下がる

こちらでは具体的に6つの案

もう一つ考えないといけないのは、利活用する

G 1 8 基本的な考え方 まとめ

石材の割れ、応急的な処置 優先的にやるべき

北側のはらみだし 優先すべき

現象として孕みだし 背面の状況、モニタリング 原因に迫る

取るべき対策 当面は

問題点 昭和の時代積み替えられたもの 上部、穴蔵

将来的には積み替えていく 往時の姿に戻すことも検討

当面の考え 3段階

第1段階 応急的な処置 モニタリング、安全対策

第2段階 全面的に改修 穴蔵石垣 今後さらに調査して整理して

往時の姿に戻す

第3段階 部分的に改変 今後調査研究して往時の姿に戻す

現況調査を踏まえて把握した問題点を整理した

3段階保全の考え方

追加的調査、実験等を踏まえて保全方針を考えていきたい

前半部分は以上

11 : 15

名古屋城：後半部分

G 1 9 基礎構造

11 : 16

北垣：終了 12 時

こちらからも質問したい どの程度時間がかかるのか
短時間でやって頂かないと困る

名古屋城：簡単に説明する

基礎構造 方針 3つ 史実に忠実な木造復元

安全

石垣に負担をかけない

天守台石垣のと理扱い

石垣の取り外し、掘削必要な場合、手が加えられたもの

江戸期 取り外しはしない 安全確保のためなら取り外し

現地調査をしっかりする

基礎構造 最小限に

A B C 提案

A, B ほぼ同じ

A 江戸期残っていない

B 江戸期残っている

C 天守台の中に杭を打つ

石垣に荷重をかけない 天守の利用を考える

安全対策を取っていこう

今の段階 A案を採用していこう

石垣に荷重をかけない 安全対策当然 遺構保護 詳細調査をして

G 2 0 安全対策 4つの区域

人命に直結する 利用活用の関係で対策を取っていく

1 穴蔵石垣部分

2 天守東免

3 内堀側

4 橋台東面

基礎構造を利用して安全対策

落石防止ネット、アンカーを取って、落石防止ネット、立ち入り禁止
天守台石垣整備をしていこう
進め方 石垣工事、天守の工事
解体に伴って石垣取り外し、
外部石垣調査、保全修理

11 : 24

北垣：ちょっと待ってもらえないか

我々話ができない

もう 35 分 前半部分だけ

資料集が出た 天守台保全対策伺っている

ちょっと前に、これまで石垣部会として、いったいどういうことを考えてきたか
結局天守台石垣 危険な状態にあるのか 地盤等調査をしてきた

天守台北面はらみ、根石欠落、堀の外岸不安定性

近現代にむちゃな積み直しをした 堀底の攪乱

勾配 慶長、宝暦石垣の接続

時間がないので、これから中でポイント的に委員の方からお話を伺っていききたい

これは全体まとめてどうこうではなく、時間がない

千田委員から話がでた

1 月 石垣カルテ 資料が上がった

カルテの内容がきっちりした調査の仕方があるのではないか

実は、中の話 文化財担当者 足場ができたので行った

個々の現場の見方の話をした

縦横断図を頂いて観察結果を部会として出した

本当はそれを先にしたい

材料 お願いしたい

出してもらえないか

名古屋城：事前に先生に配布したい

北垣：前の部会 石垣カルテを作りたい

病人の調子の悪いところをチェックしたい

城によって個人差がある

それが本人の全体像を治していく

宝暦のこのお城 この資料が残っているのはこの城だけ

見せて頂いた結果、イロハ ハ 石垣の高さの勾配 板によって作り上げている

宝暦段階 全国で初めて
イ 熊本城の天守台だけでなく、全域の勾配
一間上がるごとに勾配が上がっている
このやり方を踏襲している
私 20 年くらい前に調べた
金沢はロ
イに極めて近い
地盤工学はロは計算しやすい
西田先生 慶長、宝暦
イ 熊本型
ロ 金沢型 文化年間？
成立はイがあつてロになる
名古屋城はどういうことか
清正の段階 イ
ロ 宝暦ではないか
皆さん理解の中で話が進んでいる
この資料 宝暦資料 名古屋城で管理されている
勾配の計算式 3つしか計算式がない
天守台北側 宝暦石垣西垣 東側は清正 西側は宝暦
だいたい宝暦
本質的な価値 慶長+宝暦石垣
この形がある
実はこの中の資料集にある 色だけ付けた
イロ 秘伝書 計算式にそのまま当てはめた
黄色くなっている イ 作り方が符合する
下の方 はらみだし 本丸の搦め手石垣にも出して欲しかった
なぜ石垣を解体しないと行けなかったか
名古屋城 北側石垣 61
熊本石垣 矩返し 図面の上ででたのは初めてでた
慶長石垣に当たる
上 へこみ この関係が怖い S字型
こういう状況が図面の上で明らかになった
今回足場を組んだ 慶長、宝暦石の特徴 いいながら見てきた
カルテづくりの重要なところ
北面西側 宝暦段階の石垣
あまりはらみはない 上の方 どこがどう違うのか

開きが大きい 宝暦の特徴ではないか

3枚の図面 北側の石垣だろう 数字の絵と断面勾配がぴったり合う

びっくりしたが、どこまで本当かどうか名古屋市で調べてもらわないと行けない

慶長から時代を経て同じやり方だろうが、次の段階で変わっていったのではないか

残念なことながら、この面しかやれていない

他の面 大丈夫とは言っているが、いまやっている最中

断定的には言いにくい

調査しないといけない 石垣そういうもの

現場上がると、それはびっくりする 現場に上がらないと横から見てもなにもわからない

見て頂く機会がないと

赤羽：北垣先生から北面 深刻な状況説明があった

市長も言っていたが、この資料をもって、文化庁に持って行くのか

名古屋城：7月に持って行きたい

赤羽：危険な状況とすらは言っていない

G16 ページ 下に表

U61 北面のこと

地山の検出 はみ出し指数 やや不安定

単に数字的なもので判定かわからないが、現況と違う状況が表になっている

足場が組まれた状況 間近に見ることができた

モルタルが奥にとどまっている

スコープ調査 盛り込まれていない 空洞がある

ぐりいしが落ちこちている かなり恐ろしいこと 盛り込まれていない

「やや不安定」驚きと危機感を持つ

これをこのまま文化庁に提出することはいいことか？

皆さんにお聞きしたい

名古屋城：評価のところ

赤羽先生 スコープ、背面 追加的に行っている

ここの資料は現況 追加調査はさらに盛り込んでいきたい

西野所長：文化庁にどう提出するか

ご審議を踏まえて出したい

千田：大天守台北側面 変形が認められる

変形形状が明らか

石垣内部 空洞が生じている 石垣崩壊する現象が明確に出ている

非常に深刻な状況

発掘でわかったこと 根石周り 押さえておく構造 近代、宝暦

近代工事ではないか 根石の押さえが壊されている状態

安定性を危惧する

天守台ばかり 空堀の対岸側石垣 広い範囲に近代 根石周りがぐずぐず

極めて不安定

空堀 対岸に見えているが、堀底が攪乱 ゴミ穴のようなものも

雨が降ると雨水がたまる

いずれも報告書の結論 「安定している」とは正反対というのが石垣部会の主張

「これを文化庁に提出するのか」

事実に反する

調査が足りない

調査区を埋め戻してしまった 不十分

さらに、今日北垣先生 勾配 根石

当初の慶長、宝暦期石垣をむりやりすりあわせている矛盾がでている

なんら検討がされていない

非常に大きな問題がある

自信を持って大天守石垣「安定している」言えない 危険な状態

スケジュール 安定性保全調査 早急に行って保全措置を執っていくのが最優先

一般論 文化庁に確認したが、「なんらかの復元建物を先にして、石垣を後回しは

史跡の整備として適切ではない」

全体の修理、工事の考え方 史跡整備の原則に反する

石垣そのものの評価 石垣部会としてできていない

今日示された どれだけ審議したら十分かは言えないが、これだけ重大なことを

30分程度で言えるのか

結論が違う 「文化庁に持って行く資料ができた」一般論としていかなものか

今回「根石が安定している」結論は妥当ではない

総合してみると、周辺石垣なども極めて不安定

前提の調査をしないといけない、というのこそ結論

どうしてこういうことになっているのか推測

天守復元ありきになっていないか

学術の成果に基づき復元が原則

石垣そのものが国の特別史跡としての本質的価値
保全と具体的措置 に尽きる

11 : 54

北垣：ありがとう

千田先生 考え方 本質的価値 石垣に求めて考えていくべき 当初から
搦手石垣からずっとやっている

大天守の中に現場に入って堀底検討 上に上がってみないとわからない実態がある
単に資料 資料集としてはいいもの

これからどんどん名古屋城調査研究が飛躍的に進むのではないかと
計画書を進めていく 完全にできあがったものを出すというよりは、
課題が大きく残されているのではないかと

この課題をもう少し進めていくと、本質的な価値がわかってくる
そんなようなこと

予定の 12 時ということ

細かくやっていっても、今日 1 日十分かかってしまう

部会としても何を考えてきたか

ご理解頂けないか

11 : 57

西野所長：ご示唆頂いた

今後とも調査を続けたい

石垣保全 しっかりしたい

天守台だけでなく、全体保全していくための

搦め手石垣 時間がかかっている 反省している

一歩一歩ではあるが、体制充実しつつある

今後今までよりもしっかりとした形で進めていきたい

千田：時間がなかった

G19 基礎構造ABC案

木造天守がいい悪いにかかわらず、

石垣については、巨大なマットスラブに入っている

だれがどう見ても史実に不忠実な石垣復元

城は建物だけでなく、石垣+建物

国の特別史跡としては求められる

江戸期石垣 B 根石が残っていれば

不採用

遺構が残っていても壊す、と読める

名古屋市として文化庁に申請されるのかもしれないが、
石垣部会として了承していないし、議論していない

北垣： G4 図の3 昭和20年焼失後の図

本質的価値という言い方 この段階から昭和35年の幅
ということでもいいか

それを本来の姿に戻す

この図面を見せてもらったときに、これはすごい

安土城以来のもの

本質的価値

岩本室長：ありがとう